

赤水の偉業思いはせ

高萩・北茨城 70人、ゆかりの地歩く

高萩市出身で江戸時代の

地理学者、長久保赤水(1717~1801年)のゆかりの地を巡るウォーキング会「全国赤水ウォーク」が23日、同市や北茨城市を通る約10キロのコースで行われた。市内外から集まった約70人の参加者は赤水の旧宅や墓などを見て回り、赤水の偉業に思いをはせていた。

赤水は現在の高萩市の農家に生まれ、儒学や天文学、地理学などを学んだ。1779(安永8)年、経緯線を記入した国内初の日本地図「改正日本輿地路程全図」の初版を完成し

た。

赤水ウォークは5回目で、一行は北茨城市のJR南中郷駅前を出発。JR高萩駅方面へ南下していった。海岸近くの林の中にある赤水の墓では、赤水顕彰会の佐川春久会長が「赤水の生母は日立出身で、生母の死後に赤水を育てた養母



は北茨城出身だった。赤水はこの地域の風土の中から育まれた先人と言えらる」と解説した。

一行は松岡城跡などを經由し、高萩駅に到着。2012年に建立された赤水像の前で、高萩ふるさと案内人の会の石平光会長が建立の経緯などを解説しつつ、「『飛耳長目』の並外れた能力を持ち、多くの情報を集めて地図を編集し完成した」と赤水の功績を紹介した。

参加者の高萩市下手綱、会社員、佐藤信さん(67)は「文化の史跡を丁寧に残していきたいと感じた」と話していた。(小原瑛平)

長久保赤水の墓の前で、赤水顕彰会の佐川春久会長(中央)から説明を受ける参加者。高萩市赤浜